Acronis True Image Home 2009

■| パーソナル サポートセンターご利用の手引き

■| 補足説明書

■| ユーザーズガイド 正誤表

■| エンドユーザーライセンス契約(EULA)

インストール前に必ずお読みください

パーソナル サポートセンターご利用の手引き

http://www.runexy.co.jp/support/

サポートセンターご利用前に必ずお読みください。

ようこそ、ラネクシー パーソナル サポートセンターへ

この度は、ラネクシー取り扱い製品をご購入いただきありがとうございます。当サポートセンターは、弊社個人向けソフトウェア製品を快適にご利用いただくために必要な情報を提供いたします。この冊子は、サポートセンターのご利用方法や注意事項が記載されていますので、サポートセンターをご利用いただく前に必ずご覧ください。

ユーザー登録のお願い

製品ご購入後、なるべく早くユーザー登録をお願いいたします。ユーザー登録は弊社ウェブページ（http://www.runexy.co.jp/support/signin/）から行うか、または製品に同封されたユーザー登録カードに基づいてご登録ください。ユーザー登録を行っていただくと、サポートサービスやキャンペーンのご案内を受けることができます。ご登録頂いた個人情報の扱いについては、**「プライバシーポリシーについて」**をご覧ください。

ユーザー登録情報の変更

弊社ウェブページのユーザー登録ページ
(http://www.runexy.co.jp/support/signin/)から登録製品の確認・追加ページへログインしていただき､「会員情報の変更」から変更してください。登録情報が実際のものと異なる場合、サポートサービスやバージョンアップサービスをお断りする場合がありますのでご注意ください。

サポートセンターをご利用の前に

サポートセンターをご利用になる前に、必ず以下の内容をご確認ください。

ユーザー登録

製品をご購入いただいても、ユーザー登録がない場合、サポートサービスをご提供することはできません。サポート依頼は、ユーザー登録をされたご本人が行ってください。住所が変わった場合など必ず弊社ウェブページから登録内容の変更を行ってください。

サポート情報

サポート情報はパーソナルサポートセンターのウェブページまたは、FAQ 総合ページからご確認いただけます。詳しくはサポート情報提供サービスの項をご覧ください。

マニュアル(ユーザーズガイド)

弊社の製品はリリース前に十分なテストをし、品質の高いマニュアル（ユーザーズガイド）をご提供できるように努力しております。よくいただくご質問のほとんどは、マニュアル（ユーザーズガイド）をよく読んでいただければ解決できます。

サポートサービス

ご購入いただきました本製品は、次のようなサポートサービスを提供しております。

サービス名	ラネクシー　パーソナル サポートサービス
サポート料金	無料
必要な手続き	ユーザー登録
受付方法	電話またはウェブ （メールでの回答になります)
サービス内容	テクニカルサポート

サポートライフサイクル

現バージョンのサポートサービスは、以下のどちらか後に来る月末で終了させていただきます。

■ 次バージョンリリース月から 6 ヶ月を経過した場合。

■ 現バージョンの販売を中止した月から 6 ヶ月を経過した場合。

サポート期間の確認

パーソナル サポートサービスが終了した製品の一覧は、弊社ウェブページに掲載されています。また、サービス期間の終了が近づいている製品のお知らせも行っております。サポートサービスをご利用になる前に http://www.runexy.co.jp/support/products/　をご覧いただき、サポート期間が終了していないかご確認ください。

バージョンアップサービス

「パーソナル サポートサービス」には、無償アップグレードまたは無償バージョンアップのサービスが含まれておりません。バージョンアップ等の際には、ユーザー登録情報に基づき、弊社より有償バージョンアップのご案内をいたします。なお、無償バージョンアップ キャンペーンが実施されている場合には、そのキャンペーン対象製品とキャンペーン情報に基づきます。

サポート情報提供サービス

よくある質問と回答（FAQ）や最新モジュールの取得方法など、サポートに関する情報を弊社ウェブページで広く公開しております。サポート依頼をされるよりも、はるかに早く問題を解決できる可能性がございますので、サポートをご依頼頂く前に、これらの情報提供サービスをご活用ください。

インターネット ウェブページ ：
http://www.runexy.co.jp/support/faq/faq_acronis_consumer/

サポート受付時間

電話	9:00 ～ 17:00 祝祭日と年末年始、弊社指定日を除く、 月曜日～金曜日
ウェブ	24 時間受け付けいたしておりますが、 休日、および営業時間外に送付されたご依頼に 対する回答は翌営業日以降となります。

営業時間変更のご案内など臨時のお知らせは、弊社ウェブページのサポートセンター情報に掲載されます。
(http://www.runexy.co.jp/support/information/)

サポート依頼の方法

サポート依頼は、電話またはウェブで受け付けております。

電話　**0570-032-610**

お問合せ窓口にナビダイヤルを使用しています。
携帯電話からでもご利用頂けますが､IP 電話など
ナビダイヤルがご利用になれないお客様向けに
一般ダイヤル（03 ～）をご用意しております。
詳しくは弊社ウェブ(IP 電話からのご利用について）をご覧ください。

ウェブ　http://www.runexy.co.jp/support/

サポートを依頼する前に

サポート依頼をする前に、弊社ウェブサイトで最新アップデートビルドが公開されていないかを確認し、最新ビルドで問題が解決するか確認してください。お問い合せ頂く問題の大半は、最新アップデータを適用する事により解決できます。
まずは http://www.runexy.co.jp/support/updater/ をご確認ください。

電話によるサポート依頼

電話でお問い合わせいただいた場合、問題解決に必要な情報を漏れなく伺うことが可能です。適切かつ迅速なご回答を提供させていただくためにも、なるべく電話でのお問い合わせをお願いいたします。

ウェブによるサポート依頼

弊社ウェブサイトにサポート依頼フォームを用意しておりますので、ご利用ください。
http://www.runexy.co.jp/form/support/acronis.html
ご依頼の際は、サポート依頼書の必要項目をすべてご記入いただく必要があります。

サポート依頼に対する回答

サポート依頼に対する回答は、先着順とさせていただいておりますが、調査を要する場合には、回答までに３～５営業日程度かかることがございます。また、ご質問内容によっては、開発元に照会致しますので、開発元から回答を得るまでに時間がかかることもございます。あらかじめご了承ください。通常、回答は電子メールにて行いますが、ご質問内容

によっては電話にて行う場合もございます。また調査のために、お客様へ情報の収集等をお願いする場合がございます。

サポート範囲について

サポートサービスでは、弊社各製品のマニュアルに記載されているインストール方法、使用方法、機能について不明な点やトラブルに対して、すでに確認されている問題点、その回避方法などに基づいて、可能な範囲で解決方法をご案内いたします（お問い合せの状況により、OS の再インストール等コンピュータ システム環境の再構築をお願いする場合もございます)。

お問い合せ頂いたご質問は、以下をもって問題解決（終了）といたします。

- お問い合わせ内容に対する解決案や回避策の提示
  ※ 問題の原因、修正内容に関する情報開示はいたしません。
- 修正プログラムの提供※
  ※ 問題が修正され次第、アップデートもしくは異なるバージョン（バージョンアップ等）にて提供するよう努めますが、提供時期や全ての問題の解決をお約束するものではありません。

サポート依頼を受けられない場合

次のような場合、サポート依頼をお受けできません。また、回答もいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

- ユーザー登録がない場合
- ユーザー登録内容とサポート依頼のユーザー情報が異なる場合
- 新バージョンリリース後６ヶ月を経過した旧バージョンに対するお問い合せ
- 製品販売を中止してから６ヶ月を経過したお問い合せ
- 製品で保証している動作環境でない場合
- サポート依頼に必要なすべての情報を得られない場合
- サポート依頼に製品の本質的な問題以外のユーザコードが含まれている、または OS や他のアプリケーションの操作方法、システム構築方法に関する質問が含まれる場合
- ソフトウェア開発元より公開されていない製品の内部仕様、内部動作、機能に関するお問い合せ
- サポートに関するオンサイトでの作業
- 開発言語についてのお問い合せ

・ お客様環境ならびにお客様による開発プログラムについてのコンサルテーションやカスタマイズ

解決できない問題について

以下の理由により、お問い合せ内容に最終的な問題解決案を提示ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

・ 販売の終了が当社またはソフトウェア開発元より公式に発表されている製品の場合
・ 不具合原因が他のハードウェアやソフトウェアの併用に依存すると判断された場合
・ 不具合原因がソフトウェア開発元で特定できない場合
・ ソフトウェア開発時に製品の使用が意図されていなかった環境における不具合の場合
・ 当社あるいはソフトウェア開発元で現象の再現性が無く、現象の調査の継続が困難な場合
・ 技術的な検証をおこなった結果、問題点が仕様の範囲内にあたると当社またはソフトウェア開発元が判断した場合
・ ソフトウェア開発元より本製品の問題として認識されなかった問題、または、ソフトウェア開発元からサポート範囲外との通告を受けた質問
・ ソフトウェア開発元の諸事情により、修正プログラム提供のめどが立たない場合

プライバシーポリシーについて

サポートサービスは、ラネクシーの個人情報保護基本方針とプライバシーポリシーに従って提供されます。詳しくはユーザー登録カードおよび以下の弊社ウェブページをご覧ください。
（http://www.runexy.co.jp/corporate/privacy.html）。

※サポートセンターご利用の手引きは、予告なしに変更されることがございます。
　最新の情報は弊社ホームページでご確認ください。

補足説明書

http://www.runexy.co.jp/support/faq/faq_acronis_consumer/

FAQ をダイジェストでご紹介しています。ホームページでは画面ショットなどを使用し、より詳しい説明がされていますので、ぜひご参照ください。

Acronis True Image 11 Homeからのアップグレードについて

Acronis True Image 11 Home をアンインストールせずに Acronis True Image Home 2009 をインストールすることができます。
その場合は、次の機能が引き継がれます。

- タスク
  Acronis True Image 11 Home で作成したタスクは Acronis True Image Home 2009 で実行できますが、編集できません。Acronis True Image Home 2009 で新たにタスクを作成されることをお勧めいたします。

- Acronis セキュア ゾーン
  サイズやパスワードなど引き継がれ、保存されているアーカイブなどそのまま Acronis True Image Home 2009 で使用できます。

- Acronis リカバリ マネージャ
  アップグレード時に Acronis リカバリ マネージャが Acronis True Image Home 2009 へアップグレードされ、自動的に有効化されます。

Acronis バックアップ ロケーションと自動統合

Acronis True Image 11 Home では、**保存先**に対してバックアップ ルール※1 やバックアップ ポリシー※2 の機能を使用できる Acronis バックアップ ロケーションが Acronis True Image Home 2009 では「自動統合」に変更されています。

※1 Acronis バックアップ ロケーションに対して、最大サイズ/バックアップ最大数/最大保存期間の制限を設定できる。

※2 タスクのスケジュールウィザードで、保存先として Acronis バックアップ ロケーションを設定すると、増分/差分バックアップを作成するタスクで定期的に完全バックアップを作成することができる。

Acronis True Image Home 2009 では、**バックアップ アーカイブ（タスク）**に対して、最大サイズ/最大バックアップ数/アーカイブファイルの最長保存期間の制限を設定することができ、これらの制限値を超過した場合に一番古い完全バックアップと増分または差分バックアップを自動統合します。
Acronis バックアップ ロケーションのように保存先に対して制限するのではなく、バックアップ アーカイブ（タスク）に対して制限するため、バックアップの保存先として Acronis バックアップ ロケーションは表示されません。
自動統合は CD/DVD や FTP サーバーに保存されるアーカイブ、zip 形式は統合できません。
※ すべての環境において動作を保証するものではございません。

Acronis True Image 11 Home のタスクで、バックアップの保存先として Acronis バックアップ ロケーションを設定している場合は、正しく動作しない可能性があります。必ず Acronis True Image Home 2009 でタスクを作成しなおしてください。

削除された機能

・Acronis アクティブ リストア
・ Acronis バックアップ ロケーション

ご使用上の注意事項

1. インストール上の注意事項

- Acronis Disk Director Suite 10.0 との共存について
  Acronis True Image Home 2009 と Acronis Disk Director Suite 10.0 を同一のコンピュータ上にインストールしている場合、Acronis Disk Director Suite 10.0 をアンインストールすると、Acronis True Image Home 2009 が起動しなくなる現象が確認されています。その場合、Acronis True Image Home 2009 を再インストールすることで問題を回避することができます。

- 他のバックアップ ソフトウェアなどとの共存について
  Acronis True Image と他のバックアップ ソフトウェアとの共存はできません。必ず、他のバックアップ ソフトウェアをアンインストールしてから、Acronis True Image をインストールしてください。

- パソコン メーカー リカバリ ソフトウェアなどとの共存について
  Acronis True Image とパソコン メーカーや他社のリカバリ ソフトウェアとの共存ができないことがございます。その場合は、他のリカバリ ソフトウェアをアンインストールしてから、Acronis True Image をインストールしていただくか、製品 CD もしくはブータブル メディアをご使用ください。

- そのほかの注意事項について
  - お使いのハードウェアによっては使用できない場合があります。
  - 以前のバージョンの Acronis True Image が使用できた環境でも動作しないことが稀にあります。
  - 不良セクタのあるハード ディスクにはインストールができないことがあります。
  - ご使用のコンピュータに問題がある場合は、正しく動作しないことがあります。
  - セキュリティ系ソフトウェアを同時に使用できない場合があります。その場合は、製品 CD もしくは、ブータブル メディアをご使用ください。

2. バックアップの作成についての注意事項

- RAID 構成のバックアップと復元について
  RAID コントローラーが変更されている場合や、ブータブルメディアでコンピュータを起動したときに、RAID 構成が壊れて見える場合は復元できません。またオンボードのソフトウェア RAID（例：ICH9R や ICH10R 等の インテル® チップセット内蔵の RAID, Embedded Mega RAID SATA, Adaptec Embedded Serial ATA Host RAID, 0 Channel RAID 等）をご利用の場合は復元できません。

- 複数オペレーティング システムのバックアップについて
  複数のオペレーティング システムがある場合は、［セクタ単位でバックアップする（保存領域が多く必要)］チェック ボックスをオンにして、バックアップを作成してください。復元の際も［セクタ単位］チェック ボックスをオンにしてお試しください。

- 大容量ハード ディスクについて
  BIOS が大容量ハード ディスクに対応していないコンピュータでは、正常に大容量のハード ディスクを認識できない場合があります。

- バックアップの保存先についての注意事項
  Acronis True Image Home 2009 から、完全バックアップと増分バックアップまたは差分バックアップを別の場所に保存できるようになりました。ただし、完全バックアップと異なる保存先として、FTP サーバーや Acronis セキュア ゾーンは指定できません。

3. アプリケーションの設定のバックアップについての注意事項

事前にディスク全体またはパーティションのバックアップを作成することをお勧めします。

アプリケーションの設定のバックアップは、Acronis 社独自の解析により実現しています。アプリケーションのリビジョンや言語バージョンの違いにより、設定情報の保存方法が変更されることがあります。そのため、日本語版アプリケーションでは正しくバックアップできないことがあります。

4. ［管理と復元］画面についての注意事項

- 表示されていないバックアップについて

［管理と復元］画面に表示されていないバックアップは、［バックアップの参照］をクリックして、表示するバックアップを選択してください。なお、Acronis セキュア ゾーンに保存されているバックアップも専用のタブで確認することができます。専用のタブが表示されていない場合も同様に［バックアップの参照］から Acronis セキュア ゾーンに保存されている任意のバックアップを選択してください。

- 名前について

［管理と復元］画面の［名前］項目とバックアップ ファイル名とは関連付けされていません。［名前］はこの画面上で確認するための名前となっていますので、ファイル名をご確認される場合は、［パス］項目をご参照ください。

- 更新について

バックアップに対して更新を行うことができますが、自動結合を設定したバックアップに対しては、更新を行わないようにしてください。更新を実行すると、1 回目のタイミングで自動結合されますが、2 回目以降は自動結合されなくなります。

- 参照について

［管理と復元］画面で tib ファイルをダブルクリックしても、参照されないことがあります。その場合は、tib ファイルの上で右クリックして、ショートカットメニューから［参照］を選択してください。
なお、Acronis セキュア ゾーンに保存されているバックアップ、電子メールのバックアップやアプリケーションの設定のバックアップは参照することはできません。参照できるのは、イメージバックアップとデータのバックアップのみです。

5. Acronis セキュア ゾーンについての注意事項

- Acronis セキュア ゾーンの作成について
  Acronis セキュア ゾーンの機能や試用モードを使用しない場合は、作成する必要はありません。作成後に削除する場合は、ユーザーズガイドの「9.4 Acronis セキュア ゾーンの削除」を参照して削除してください。なお、削除する場合には、Acronis セキュア ゾーンを削除後、どのパーティションに割り当てるかをチェックしないと、未割り当てパーティションになりますので、ご注意ください。

- ファイル名について
  Acronis セキュア ゾーンに任意のファイル名をつけて保存できるようになりましたが、システム パーティションを復元するとファイル名がイメージ バックアップは「ディスク アーカイブ」、ファイルバックアップは「ファイル アーカイブ」とファイル名が変更されます。

- 参照について
  Acronis セキュアゾーンに保存されているバックアップを参照することはできません。

- 秘密の質問について
  Acronis セキュア ゾーンに設定したパスワードに対する秘密の質問は、Acronis セキュア ゾーンの管理や Acronis リカバリ マネージャのときに表示されます。なお、日本語（マルチバイト文字）の答えは使用しないでください。

6. 試用モードについての注意事項

- 試用モード中の変更情報の保存場所について
  試用モード中に操作した変更内容については、Acronis セキュア ゾーンに保存されます。試用モード中に Acronis セキュア ゾーンの容量が一杯になると、変更が破棄されます。また、変更量が大量にある場合はブルースクリーンとなり、コンピュータが再起動することがあります。
  そのため、[試用モードの管理] や [ディスク領域モニター] で、事前に Acronis セキュア ゾーンの容量などをご確認ください。

- Acronis リカバリ マネージャについて
  Acronis リカバリ マネージャが有効化されていても、試用モード中は Acronis リカバリ マネージャを使用することはできません。

- 試用モード中の制限事項について
  試用モード中に保護するドライブに対して次の操作を実行すると、オペレーティング システムが起動しなくなることがあります。そのため、試用モードでは操作しないようにしてください。
  - 最適化（デフラグ）
  - エラーチェック（スキャン ディスク）
  - フォーマット
  - Acronis True Image Home の新しいビルドへのアップデート
  - 一度に大きな変更を行う操作（サービス パックの適用など）

7. マウント/参照についての注意事項

- マウントの解除について
  イメージファイルのマウント作業が終了しましたら、マウントを解除するようにしてください。
  たとえば、ネットワーク上に保存されているディスク イメージ ファイルを書き込み可能でマウントし、マウント解除せずにコンピュータを再起動して、そのイメージを再度マウントしようとすると［マウント中です］とエラーが表示されます。その場合は、マウントを解除してください。

- イメージ アーカイブの保存場所について
  イメージ アーカイブが複数枚の CD/DVD や、ネットワーク共有に保存されている場合は、一旦全イメージ ファイルをハード ディスクの同一フォルダにコピーしてください。

- 書き込み可能モードについて
  ［パーティションを書き込み可能モードでマウントする］でマウントすると、編集モードとなり編集バックアップ ファイルが作成されます。もし必要のないときは、その編集バックアップ ファイルを削除してください。
  なお、イメージ アーカイブが DVD に保存されている場合は、［書き込み可能モード］を使用できません。

8. 検索についての注意事項

- 検索できないファイルについて
  Acronis True Image Home 2009 では次のファイルを検索することができません。
  - ・暗号化およびパスワードで保護された tib ファイル
  - ・Acronis セキュア ゾーン内のファイル
  - ・Acronis True Image Home 2009 で作成された zip ファイル
  - ・リムーバブル メディアに保存されている tib ファイル
  - ・［管理と復元］画面に表示されていない tib ファイル

- 復元について
  検索中にバックアップを復元しようとしても、復元が実行されないことがあります。その場合は、検索を中止してから復元を行ってください。

- Windows Vista の検索機能について
  Windows Vista の検索機能を使用し、tib ファイル内に保存されている任意のファイル名を検索して、検索結果に表示されたファイル名の上で右クリックしてもショートカットメニューが表示されません。さらに、ドラッグ アンド ドロップしてもそのファイルをコピーすることができません。
  その場合は、Windows Vista の検索機能を使用せず、Acronis True Image の［バックアップの検索］から検索を行うようにしてください。

9. そのほかの注意事項

- ディスク シグネチャの復元について

  Acronis True Image Home 2009 から［ディスク シグネチャを復元］チェック ボックスが追加され、ディスク シグネチャも復元できるようになったため、復元後に動作しなかったタスクスケジュールも動作するようになりました。

  ［ディスク シグネチャの復元］チェック ボックスのおもな動作は次のとおりです。

  - 異なるディスクへ復元する際、［ディスク シグネチャを復元］チェック ボックスをオンにすると、復元ディスクのディスク シグネチャは作成元のディスク シグネチャと同じとなります。
  - 異なるディスクへ復元する際、［ディスク シグネチャを復元］チェック ボックスをオフにすると、復元ディスクのディスク シグネチャは新たに生成されます。
  - 同じディスクへ復元する際、［ディスク シグネチャを復元］チェック ボックスをオンにしてもオフにしても、作成元のディスク シグネチャと同じとなります。

  ※ なお、クローンの場合は、このチェック ボックスの設定が無いため、ディスク シグネチャを復元することができません。

  ※ 同じコンピュータに同一のディスク シグネジャを存在させないでください。同一シグネチャを存在させた場合の結果については保証されません。

- 製品 CD について

  製品 CD を起動ディスクとして使用する場合には、CD-ROM ブート可能な BIOS が搭載されている必要があります。

- ブータブル メディアについて

  Acronis True Image では、Windows が動作しなくなった場合や Windows 以外のオペレーティング システムを使用しているときに使用するためのブータブル メディアを作成することができます。

  ブータブル メディアによるハードウェアの認識はご使用のハードウェアに依存し、一部の製品では正常に動作をしない可能性があります。

- Acronis Drive Cleanser について
  抹消はハードディスクの寿命を縮める可能性があります。
  特に古いハードディスクを抹消対象とした場合、作業中や作業後にハードディスクが認識されなくなることもあり得ます。抹消作業の途中や直後にハードディスクが認識されなくなった場合は、ご使用のコンピュータが、他のハードディスクを認識できるか確認してください。他のハードディスクが正しく認識できる場合は、コンピュータは故障していないと考えることができます。
  また、ハードディスクから「カタンカタン」と音が聞こえたり、引っ掛かるような異音が聞こえている場合は、ハードディスクの寿命が来ていると考えられます。抹消を行った結果、ハードディスクが破損しても、弊社では保証できません。
  なお、Acronis Drive Cleanser のデータ抹消機能は、ハードウェアの直接制御ではなく、通常のハードウェア制御インターフェイスを経由しています。

- サイズの異なるディスクへのクローンや復元について
  サイズの異なるディスクへクローンや復元を行った場合、操作後のパーティションサイズの結果が異なります。
  サイズの異なるディスクへクローンを作成すると、作成先のディスクに合わせてパーティション サイズを調整します（サイズが大きい場合は、各パーティションのサイズを伸ばします)。
  サイズの異なるディスクへイメージを復元すると、パーティションサイズは変更せず、残りのスペースは未割り当て領域となります。

- ネットワーク共有フォルダへの保存について
  バックアップの保存先を設定する際、［認証の設定］からネットワーク共有フォルダへのログイン情報を設定することができます。
  ただし、ログイン情報を設定していてもログインに失敗することもあります。その場合は、再度［認証の設定］でログイン情報を再設定してください。

よくあるお問い合わせ

インストール

Q１:　ブータブル メディアのセーフ版（セーフ メディア）をインストールすることができません。

A１:　セーフ メディアとBart PEはMedia Add-ons for Acronis True Image Home 2009 として別インストーラーで用意しています。製品 CDもしくは同梱されているインストーラーを起動してインストールしてください。

Q２:　コンピュータ メーカーのリカバリ ツールが、コンピュータのハード ディスクにある場合、Acronis セキュア ゾーンやAcronis リカバリ マネージャは使用することができますか？

A２:　使用は可能と思われますが、お勧めできません。コンピュータ メーカーのリカバリ ツールの多くは、起動時にMBR(マスターブート レコード)を使用します。Acronis リカバリ マネージャも MBR を使用しているため、Acronis リカバリ マネージャを有効化すると MBR を書き換えます。そのため、コンピュータ メーカーのリカバリ ツールが使えなくなる可能性があります。コンピュータ メーカーのリカバリ ツールが使用できないときには、そのメーカーより復旧ツールが提供されていることがありますので、そちらをご使用ください。
例：IBM リカバリ復旧ツール
http://www-6.ibm.com/jp/domino04/pc/support/Sylphd02.nsf/jtechinfo/SYJ0-00BC3AB/

ブータブル メディア

Q１:　Acronis メディア ビルダ ウィザードの［ブータブル メディア コンテンツの選択］で一覧に何も表示されません。

A１:　同じコンピュータに複数のAcronis 製品がインストールされている場合に、この問題が発生することがあります。

回避方法：

1. レジストリ エディタを起動してください。
2. 下記レジストリキーを参照してください

Windows 32 bit：
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Acronis

Windows 64 bit：
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Acronis

3. ［Acronis］フォルダを右クリックして、アクセス許可を開いてください。
4. 詳細設定を開きます。
5. 次の項目をチェックしてください。
   - アクセス許可エントリの欄に「Administrators」「SYSTEM」グループが存在するか。
   - そのグループのアクセス許可は「フルコントロール」になっているか。
   - そのグループの適用先は「このキーとサブキー」になっているか。
   - 「子オブジェクトに適用するアクセス許可エントリを親から継承・・・・」にチェックが入っているか。
6. 変更したら適用をクリックし、ウィンドウを閉じて、コンピュータを再起動してください。
7. 問題が改善されたかを確認してください。

Q 2：　製品 CD、またはブータブル メディアから起動し、復元をする際にパスワードエラーとなってしまいます。
A 2：　製品 CD、またはブータブル メディアから起動した場合、キーボードは英語配列となります。パスワードに記号などをご使用のときには、ご注意ください。対処方法などの詳細は、弊社ウェブページで公開しているFAQをご参照ください。

Q 3：　製品 CD、またはブータブル メディアから起動した場合、キーボードで殆ど操作できません。
A 3：　Acronis True Image Home 2009 のブータブル メディアは、キーボードで殆ど操作できません。マウスをご利用ください。

Q 4：　製品CD、またはブータブル メディアから起動した場合、DHCP サーバーがないとネットワークが使用できないのでしょうか？
A 4：　［ツール］→［オプション］よりネットワークを設定すれば、認識できる場合があります。

Q 5：　製品 CD、またはブータブル メディアから起動した場合、ネッ

トワーク ドライブが参照できません。

A５：　［ツール］→［オプション］よりネットワーク設定で IP が割り当てられているか、ネットワークカードを認識しているかを確認してください。ネットワークドライブを参照できない場合は、使用されているネットワークカードが認識できていない可能性があります。この場合は、ネットワークカードを変更してお試しください。ネットワークカードが認識されている場合、ネットワークコンピュータを参照できる画面で、画面のツリーの中にある［近くのコンピュータ］で、他のコンピュータが見えているかをご確認ください。他のコンピュータが見えている場合は ¥¥コンピュータ名¥共有名 のように、UNC(Universal Naming Convention)表記でお試しください。

Q６：　製品 CD やブータブルメディアから起動した場合に、画面崩れしてしまい使用できません。

A６：　その場合は、BIOSで「Video Configuration」などの設定を変更することが回避することができます。

回避方法：Video Configuration の設定値を変更する

1. BIOS 設定の[Advanced]タブの「Video Configuration」を選択する。
2. 「Frame Buffer Size」の値を 8 MB にする

※ 512 KB や 1 MB の設定で問題が発生することがあります。

Q７：　製品 CD やブータブルメディアから起動した場合、黒い画面の右上に、 Acronis ロゴと「Loading, please wait...」のメッセージが表示されたままになります。

A７：　この現象は、ブータブルメディアで使用している Linux Kernel が、ハードウェアの認識に時間がかかっている場合や、ハードウェアに対応できていない場合に下記の画像のような状態で、停止しているように見えます。
弊社の検証において、パソコンの構成によっては、起動までに約 20 分程度かかることもありました。動作しているかどうかの判断は、Acronis ロゴの下にある白いカーソルの状態で判断できます。カーソルが点灯(消灯)したままになっている場合はフリーズ（ハングアップ）していると認識していただいてもかまいません。フリーズする場合には、次の６つの回避方法をお試しください。

※詳細は、弊社ウェブページで公開しています FAQ をご参照ください。

回避方法１：パソコン構成をシンプルにする。
バックアップに不要な周辺機器やインターフェイスを取り外したり、BIOS 設定で各種デバイスを無効にして、コンピュータを最小構成で起動します。

回避方法２：BIOS 設定を変更する。
［USB レガシー機能］ を Disable(無効)にする 。
［APIC interrupt routing］ を Enable(有効)にする。

回避方法３：SATA の設定を変更する。
BIOS の SATA ハードディスクデバイスに関する設定項目で、「IDE 互換モード（IDE Compatible）」に設定できるか確認してください。設定できる場合は、「IDE 互換モード」に設定して、ブータブルメディアで起動してください。BIOS 設定を変更した場合は、Windows を再起動する前に BIOS 設定を戻すことを忘れないでください。BIOS の設定方法については、コンピュータの取扱説明書ご覧ください。

回避方法４：SCSI を取り外す。
SCSI ボードが実装されている場合は、一時的に SCSI ボードを取り外してみてください。取り外した状態で、正しくブータブルメディアが起動する場合、申し訳ございませんがブータブルメディアが SCSI ボードに対応しておりませんので、Windows PE にてご確認ください。

回避方法５：サードパーティ製 IDE コントローラーの設定を変更する。
マザーボードに J-Micron などのサードパーティ製 IDE コントローラーが実装されている場合、BIOS にあるサードパーティ製 IDE コントローラーの設定を変更してみてください。例えば、ASUS P5B シリーズでは、サードパーティ製 IDE コントローラーを無効または IDE に設定することにより標準ブータブルメディアで動作することが確認されています。

回避方法６：ブータブルメディアの起動オプションを変更する。

問題がおきているパソコンのチップセットを調べてください。チップセットが、インテル P965/G965/Q965/Q963 の何れかに該当する場合、次の操作を行うことにより、ブータブルメディアが使えることがあります。

1. ブータブルメディアで起動し、メニュー画面で［F11］を押します。
2. ダイアログボックスが表示されますので「quiet」という文字列を削除し、「viamraid=off」と入力して［OK］をクリックします。
3. 完全版を選択して起動します。しばらくするとコマンドプロンプト＃が表示されます(機種によっては［Enter］を押さないと＃が表示されないことがあります)。
4. コマンドプロンプト＃で「exit」と入力し、［Enter］を押すと、Acronis True Image の画面が現れます。

※この方法を使用すると DVD ドライブが認識されないことがあります。予めご了承ください。

バックアップの作成

Q 1：　完全バックアップと異なる保存先に差分/増分バックアップを作成できる機能で、異なる保存先としてFTPサーバーやAcronis セキュア ゾーンが指定できません。

A 1：　こちらは仕様となっており、完全バックアップと異なる保存先として、FTPサーバーやAcronis セキュア ゾーンは指定できません。

Q 2：　CD/DVDなどのメディアにzip形式のバックアップを作成することができますか？

A 2：　CD/DVDのメディアへ直接zip形式のバックアップを作成することはできません。一時的にローカルディスクなどに保存していただいてから、CD/DVDへ書き込みをしてください。

Q 3：　アプリケーションの設定のバックアップを行う上での注意点を教えてください。

A 3：　事前にディスク全体またはパーティションのバックアップを作成することをお勧めします。
アプリケーションの設定のバックアップは、Acronis社独自の解

析により実現しています。アプリケーションのリビジョンや言語バージョンの違いにより、設定情報の保存方法が変更されることがあります。そのため、日本語版アプリケーションでは正しくバックアップできないことがあります。

Q 4 :　電子メールのバックアップでMicrosoft OutlookのIMAPメールフォルダのバックアップは作成できますか？
A 4 :　Microsoft OutlookのIMAPメール フォルダのバックアップを行うことができます。ただし、環境によっては正しく復元できない可能性があります。

Q 5 :　Windows VistaのBitLockerドライブ暗号化により保護されているドライブのバックアップは作成できますか？
A 5 :　Windows VistaのBitLockerドライブ暗号化により保護されているドライブのバックアップはサポートされていません。

Q 6 :　圧縮されたパーティションのバックアップを作成できません。
A 6 :　Acronis True Image ではNTFS 圧縮されたパーティションのバックアップを作成することができません。そのため、パーティション（ボリューム）のNFTS 圧縮を解除してから、バックアップを作成してください。

Q 7 :　［一時ファイル名の決定に失敗しました］とエラーログが登録されバックアップを作成できません。
A 7 :　Acronis True Imageは一時的なスナップ ファイルをWindowsテンポラリー フォルダに保存します。そのためこのフォルダに十分な空きスペースがない場合に、［一時ファイル名の決定に失敗しました］とエラーログが登録されバックアップを作成できないことがあります。その場合は、% Temp % フォルダに保存されている一時ファイルを削除してください。

Q 8 :　Windows 上でバックアップ アーカイブを保存する時にパソコン上で作業をしても大丈夫でしょうか？
A 8 :　基本的に問題ありません。しかし、Windows 上でバックアップ処理を行っている時には、アプリケーションの追加･削除やWindows アップデートなどのシステムの変更は行わないでください。システム変更を行ったとき、作成されたバックアップ

がどの時点のスナップショットになるかは、責任を負いかねます。

Q 9 :　ページングを除外してイメージ ファイルを作るようですが確認をしたらファイルが存在するのはなぜでしょうか？

A 9 :　イメージ アーカイブの作成は、使用しているセクタのみ読み込みます。またページングおよびハイバネーション ファイルに関しては、ファイルサイズは同じですが内容はダミーとなります。

Q 10 :　Acronis One-Click Restore の作成時の注意点を教えてください。

A 10 :　バックアップ オプションの［メディア コンポーネント］項目内の［メディアにAcronis One-Click Restore を配置する］を設定して、Windows 上からバックアップを作成すると、Acronis One-Click Restore 機能を使用できるメディアを作成することができます。なお、［メディア コンポーネント］項目内のもう１つ［メディアにAcronis True Image Home（完全版）を配置する］も同時に設定するようにしてください。同時に設定すると、もし、Acronis One-Click Restore でうまく復元が行えないときでも、通常のブータブル メディアとして使用することが可能となります。なお、Acronis One-Click Restore では、ハード ディスク ドライブ全体が復元対象となります。

Q 11 :　イメージを上書きして保存しますが、イメージ作成中にキャンセルを行うとどうなりますか？

A 11 :　イメージ作成中にキャンセルを行うと、上書きしているファイルは削除されます。

Q 12 :　FTPサーバー上に保存しているアーカイブに対して、自動統合されません。

A 12 :　Acronis True ImageはFTPサーバー上に保存されているアーカイブに対して自動統合を試みますが、正しく動作しないことがあります。そのため、FTPサーバー上に保存しているアーカイブに対しては、自動統合機能を設定しないようにしてください。

Q 13： 自動統合で違反が発生してもログに残りません。

A 13： Acronis True Image 11 Homeでは、Acronis バックアップ ロケーションのバックアップ ルールに違反したら、そのことについてログに登録されて確認することがきました。

しかし、Acronis True Image Home 2009 からは自動統合に関するログが 1 行のみしか登録されず、違反の内容については確認できない仕様となっています。

Q 14： デフォルトのバックアップ オプションで[バックアップの優先度］が「低」に設定されているのに、バックアップウィザードでは「通常」となっていています。どちらが正しい設定ですか？

A 14： その場合は、バックアップの優先度は「通常」となります。

一度デフォルトのバックアップ オプションの[バックアップの優先度］の設定を手動で変更すると、その設定値がバックアップ ウィザードにも反映されるようになります。

Q 15： ファイル バックアップが途中で停止します。

A 15： ファイル バックアップ中に次の現象が発生して、バックアップが完了しない場合があります。

- Acronis True Image が使用しているプロセスの CPU 使用率が 0% になる
- Acronis True Image ウィンドウの最小化とステータスの表示のみができる
- ［キャンセル］をクリックしても、1 時間以上キャンセルにならない

※ Acronis True Image は、[キャンセル］をクリックしても、現在進行中のプロセスが終了するまでキャンセルが実行されません。これは作業を安全に停止するための処置ですが、本現象が発生している時には、何時間待っても処理が進みません。

なお、この問題は環境に依存し、次のようなバックアップを行うと発生する確率が高くなると考えられています。

- 動画ファイルなど、大きなファイルを複数バックアップしているとき
- 数多くのファイルをバックアップ対象としているとき

次のいずれかの方法で回避できることが確認されております

のでお試しください。

・ 対象のバックアップを１回の処理にせず数回に分けて行う
・ バックアップ時に、圧縮を行わない
・ ブータブルメディアから起動してバックアップする

タスクのスケジュール

Q１: スケジュール作成時の開始時刻が現在時刻になっていません。

A１: Acronis True Image Home 2009 からスケジュール作成時の時刻の既定値が、現在時刻の 15 分後に設定されるように仕様が変更になりました。

Q２: アイドル時に実行されるスケジュールがアイドル時にならず実行されないと［前回の実行日時］に 12:00:00AMと表示される

A２: こちらは仕様となっており、正しく実行されればその時間が表示されるようになっています。

Q３: 作成したタスクスケジュールが動作しません。

A３: 作成したタスクスケジュールが設定日時になっても動作しない場合は、Acronis scheduler（Acronis True Imageのコンポーネント）の不具合が考えられます。対処方法などの詳細は、弊社ウェブページで公開しているFAQをご参照ください。

Q４: タスク スケジューラの新規タスク追加時に､ユーザー名とパスワード入力画面で［ログイン情報が正しくありません］と警告表示され、スケジュールが追加できません。

A４: タスク スケジューラのユーザー名には､現在ログインしているユーザー名を入力してください。ユーザー名は Windows 標準のタスクスケジューラのタスク ウィザードの最後で確認できます。

Q５: ハードディスクを交換した場合、保存先として交換前のハードディスクを指定していたタスクが失敗します。

A５: ハードディスクには固有のID（ディスク シグネチャ）があり、Acronis True Image はスケジュールされているタスクを実行するときは、ハードディスクのIDをチェックします。
そのため、ハードディスクを交換すると、そのIDのハードディ

スクが見つからなくなるため、タスクが失敗してしまいます。
対処方法としては、ハードディスクを交換した場合、同様のタスクを再度作成してください。
ハードディスクの交換を計画している場合、それらのためのタスクをそれぞれ作成しておいてください。

管理と復元

Q 1：［管理と復元］画面で、バックアップの名前を変更しても、対応するファイル名が変更されません。
A 1：［管理と復元］画面の［名前］の項目とバックアップ ファイル名とは関連付けされていません。［名前］はあくまでもこの画面上で確認するための名前となっています。ファイル名をご確認される場合は、［パス］項目をご参照ください。

Q 2：自動結合（個数 2 個）を設定したタスクを 1 回実行して完全バックアップを作成した状態で、その完全バックアップにアップデートを行うと、1 回は自動結合するがそれ以降は結合されません。
A 2：更新と自動統合は一緒に出来ません。自動統合を設定しないでアップデートを行ってください。

Q 3：管理と復元画面でtibファイルをダブルクリックしても参照されず、詳細情報が表示されることがあります。
A 3：管理と復元画面でtibファイルをダブルクリックしても、参照されないことがあります。その場合は、tibファイルの上で右クリックして、ショートカットメニューから［参照］を選択してください。なお、電子メールのバックアップやアプリケーションの設定のバックアップは参照することはできません。参照できるのは、イメージ バックアップとデータ バックアップのみです。

Q 4：正しいパスワードを入力しても「パスワードが無効です」というエラーが出てバックアップアーカイブにアクセスすることができません。
A 4：Acronis True Image のDLL の一部分が正しくインストールされなかった可能性があります。なお、ブータブル メディアで

はこの問題は発生しません。
※詳細は、弊社ウェブページで公開しています FAQ をご参照ください。

回避方法：

1. Acronis True Image Home 2009 をアンインストールしてください。
2. 「C:¥Program Files¥Common Files¥Acronis」フォルダを削除してください。
3. レジストリエディタを開いて、以下のキーを削除してください。(Acronis というキーだけ削除し、他のキーは削除しないでください。)
   Windows 32 bit:
   HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Acronis
   Windows 64 bit:
   HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Acronis
4. コンピュータを再起動してください。
5. Acronis True Image Home 2009 を再度インストールしてください。

Q 5 :　以前のAcronis True Image Homeで、パスワードを設定して作成したバックアップが、Acronis True Image Home 2009 の［管理と復元］画面に表示されません。

A 5 :　以前のAcronis True Image Homeでパスワードを設定して作成したバックアップに対して、Acronis True Image Home 2009 は正しいバックアップのパラメータを判定できず、そのバックアップを［管理と復元］画面の［不明なバックアップ］タブに表示します。
そのバックアップのパスワードがわかる場合は、右クリックして表示される［バックアップ一覧に移動］をクリックして、正しいパスワードを入力すれば、［すべてのバックアップ］タブへ移動されます。

Q 6 :　電子メールのバックアップで復元先を指定できません。

A 6 :　復元ウィザードで電子メール バックアップを復元する際、復元先を指定する項目がなくなりました。そのため復元先は元の場所のみしか復元できません。

Q 7 :　分割したイメージ アーカイブから復元するとき、ディスクを入

れ替えた後に読み込みができなくなってしまいました。

A 7：　ディスク交換のメッセージが出た直後にディスクを入れ替え、すぐに［再試行］ボタンを押すと認識できなくなる可能性があります。一度このような状態になりますと、ディスク認識ができませんので再度一からやり直してください。ディスクを入れ替えた後、ドライブのアクセスランプが消えてから［再試行］ボタンを押してください。

Q 8：　Acronis One-Click Restore を使用してバックアップ アーカイブを復元したときに、[オリジナルの構成情報を復元できません。]　という内容のエラーメッセージが表示されます。

A 8：　このエラーメッセージは、バックアップ アーカイブの復元ができなかったときに表示されます。このとき、復元先のハード ディスクは未割り当てになっています。このエラーメッセージが表示されたときは、任意のブータブル メディアからコンピュータを起動し、Acronis One-Click Restore のメディアに保存されているバックアップ アーカイブを使用して復元してください。

Q 9：　ディスクの復元やクローン作成が数秒で終わってしまい、正しくディスクの復元やクローン作成が行われません。

A 9：　ディスクの復元やクローン作成を実行する際、コンピュータにUSB ハードディスクなどのUSB記憶装置が接続されていると、ディスクの復元やクローン作成が行われず、エラーも表示されない状態で終了することがあります。その場合は、一旦USB記憶装置をコンピュータから取り外してから、ディスクの復元やクローン作成を行ってください。

Q 10：　ファイルに元の日時のまま復元することができますか？

A 10：　バックアップ アーカイブを復元する場合、デフォルトでは復元時の日時を設定するようになっておりますが、もとの日時のまま復元することも可能です。その場合は、復元ウィザード中の復元オプションの［その他の設定］の「復元されたファイルに現在の日時を設定する」チェック ボックスをオフにした状態で、復元を実行してください。

Acronis セキュア ゾーン / Acronis リカバリ マネージャ

Q 1 :　Acronis セキュア ゾーンに任意の名前をつけて保存できるようになりましたが、システム パーティションを復元するとその名前が変更されてしまいます。

A 1 :　Acronis セキュア ゾーンに任意の名前をつけて保存できるようになりましたが、システム パーティションを復元すると、その名前がイメージ バックアップは「ディスク アーカイブ」、ファイル バックアップは「ファイル アーカイブ」と名前が変更されてしまいます。この現象は仕様となっております。

Q 2 :　Acronis セキュア ゾーンに設定したパスワードに対する秘密の質問がバックアップ作成時などに表示されません。

A 2 :　Acronis セキュア ゾーンに設定したパスワードに対する秘密の質問は、Acronis セキュア ゾーンの管理やAcronis リカバリ マネージャのときに表示されます。

Q 3 :　Acronis セキュア ゾーンを作成したら、コンピュータの起動が不安定になりました。

A 3 :　Acronis セキュア ゾーンはハード ディスク内のパーティションサイズを変更します。そのため、マルチブート ユーティリティや瞬間復旧ユーティリティなどを使用している環境では正常に動作できない、もしくはオペレーティング システムが起動できなくなる可能性があります。このようなソフトウェアを使用しているときは、Acronis セキュア ゾーンの使用は避けてください。

Q 4 :　ブータブル メディアでの起動時に、Acronis セキュア ゾーンのパスワードがエラーとなってしまいます。

A 4 :　Acronis セキュア ゾーンのパスワードや秘密の質問に日本語の入力が行えますが、ブータブル メディア起動時でのキーボードの英語配列、文字数や表示などの問題により、正しくパスワードを認識しない可能性があります。Acronis セキュア ゾーンのパスワードや秘密の質問には、日本語を使用しないようにしてください。

Q 5 :　リカバリ マネージャを無効にすることができません。

A 5 :　リカバリ マネージャを有効にしている状態で、［Acronis リカ

バリ マネージャの有効化］機能で［設定を変更しない］を設定しても、リカバリ マネージャを無効にすることはできません。リカバリ マネージャを無効にするには、一旦 Acronis セキュア ゾーンを削除して、再度 Acronis セキュア ゾーンを作り直してください。

Q 6：　Acronis セキュア ゾーンが作成できません。

A 6：　Acronis セキュア ゾーンが作成できない原因として 4 つのプライマリパーティションが存在する場合やファイル システムが破損している場合などが考えられます。

回避方法：

1. 4 つのプライマリパーティションがある場合は、プライマリパーティションを 1 つ削除してください。
2. スキャンディスク（ディスクのエラーのチェック）をしてください。

試用モード

Q 1：　試用モード中にブルースクリーンとなり、コンピュータが再起動してしまいました。

A 1：　試用モード中での変更作業に関する情報は、Acronis セキュア ゾーンに保存されます。そのため、たとえばAcronis セキュア ゾーンよりもサイズが大きいファイルをコピーしたり、Acronis セキュア ゾーンの容量がいっぱいになると、ブルースクリーンとなり、コンピュータが再起動することがあります。
試用モード中にいろいろと操作される場合は、事前にAcronis セキュア ゾーンのサイズを大きめに変更してください。

Q 2：　試用モード中にAcronis リカバリ マネージャを使用できますか？

A 2：　Acronis リカバリ マネージャが有効化されていても、試用モード中はAcronis リカバリ マネージャを使用することはできません。

Q 3：　試用モード中に実行してはいけない操作はありますか？

A 3：　試用モード中に保護するドライブに対して次の操作を実行すると、オペレーティング システムが起動しなくなることがありま

す。そのため、試用モードでは操作しないようにしてください。

- 最適化（デフラグ）
- エラーチェック（スキャン ディスク）
- フォーマット
- Acronis True Image Home 新しいビルドへのアップデート
- 一度に大きな変更を行う操作（サービス パックの適用など）

検索

Q 1：　検索できないファイルを教えてください

A 1：　Acronis True Image Home 2009 では下記ファイルを検索することができません。

- 暗号化およびパスワードで保護された tib ファイル
- Acronis セキュア ゾーン内のファイル
- Acronis True Image Home 2009 で作成された zip ファイル
- リムーバブル メディアに保存されている tib ファイル

Q 2：　バックアップ ファイルが検索されないことがあります。

A 2：　［管理と復元］画面に表示されていないバックアップ ファイルは検索の対象外となります。そのため、［バックアップの参照］を使用して、一覧にバックアップ ファイルを追加してください。

Q 3：　検索したバックアップファイルから復元を実行しても、復元されないことがあります。

A 3：　検索中にバックアップを復元しようとしても、復元が実行されないことがあります。その場合は、検索を中止してから復元を行ってください。

Q 4：　リムーバブル メディアに保存しているtibファイルやzipファイルが検索できません

A 4：　こちらは仕様となっており、リムーバブル メディアに保存されているtibファイルやzipファイルを検索できません。

Q 5：　Windows Vistaの検索機能を使用してもtibファイル内も検索した場合、検索されたファイルをコピーできません。

A 5：　Windows Vistaの検索機能を使用し、tibファイル内に保存されている任意のファイル名を検索して、検索結果に表示されたフ

ァイル名の上で右クリックしてもショートカットメニューが表示されません。さらに、ドラッグ操作でもコピーすることができません。この場合は、Acronis True Imageの［バックアップの検索］から検索を行うようにしてください。

Q 6：　Windows XP にてWindows Searchを使用し、tibファイル内に保存されている任意のファイル名を検索することはできません。

A 6：　Windows XPにてWindows Searchを使用し、tibファイル内に保存されている任意のファイル名を検索することができないことがあります。その場合は、Windows XP x64 EditionのWindows Searchを使用せず、Acronis True Imageの［バックアップの検索］から検索を行うようにしてください。

アーカイブの参照とイメージのマウント

Q 1：　ディスク/パーティション イメージファイルを書き込み可能モードでマウントした状態のまま、コンピュータを再起動しても問題ありませんか？

A 1：　イメージファイルのマウント作業が終了したら、マウントを解除するようにお願いします。
たとえば、ネットワーク上に保存されているディスクイメージファイルを書き込み可能でマウントして、マウント解除せずにコンピュータを再起動すると、そのイメージを再度マウントしようとすると［マウント中です］とエラーが表示されます。

Q 2：　バックアップ アーカイブをマウントできません。

A 2：　バックアップ アーカイブをマウントできない理由として様々な原因が考えられますが、Acronis True Image Home 2009 の最新のビルドをインストールするなど、次の回避方法をお試しください。
※詳細は、弊社ウェブページで公開しています FAQ をご参照ください。

回避方法：

- True Image Home 2009 の最新のビルドをインストールしているか
- マウントするイメージがディスク、またはパーティション イメージであるか(ファイル バックアップのイメージはマウント出来ません)

・複数に分割されたイメージの場合は、それらが全て同じフォルダ内に用意してください(複数枚にわたる CD/DVD のバックアップの場合は､それらを HDD にコピーしてください)
・ ベリファイによるイメージのチェックでエラーが発生しないか
・イメージ内に EISA パーティションが存在する場合は、それをマウントしていないか
・接続されている全ての USB 記憶装置を外しているか(マウントするイメージが入っている USB 記憶装置は繋げておく必要があります)
・暗号化ソフトやセキュリティソフトが入っている場合はそれらを無効にしているか

Q 3 : 　複数枚のメディアからイメージのマウントをする際に注意点はありますか？
A 3 : 　複数に分割して保存したイメージ アーカイブを［イメージのマウント］で仮想ドライブに割り当てるとき、メディアの差し替えが多発します。そのため､分割されているイメージ ファイルをローカル ディスクなどの同一のフォルダにコピーすることをお勧めします。

ディスクのクローン作成

Q 1 : 　クローンディスクウィザードで元ハードディスクに対する処理方法選択画面が表示されません。
A 1 : 　クローンディスクウィザードで元ハードディスクに対する処理方法が表示されなくなりました。元ハードディスクに対しては、何も操作されない（元の状態）となります。

Q 2 : 　ディスクのクローン機能でディスク全体をコピーしたが、システムが起動できません。
A 2 : 　ディスクのクローン作成でうまくいかない場合、一旦イメージを作成し、クローン先に復元すると問題が解決する場合があります。

Q 3 : 　Linux をインストールしたハード ディスクをディスクのクローン作成機能でより大容量のハード ディスクにコピーしまし

たが、移行先 HDD から起動できません。

A 3 :　Linux のハード ディスクをドライブのクローン作成機能で複製したときは、GRUB の復旧(例 : /sbin/grub-install)が必要になります。

Q 4 :　サイズの異なるディスクへクローンを作成すると、元のディスクとサイズが異なります。

A 4 :　サイズの異なるディスクへクローンを作成すると、作成先のディスクに合わせてパーティション サイズを調整します(サイズが大きい場合は、各パーティションのサイズを伸ばします)。
サイズを調整しない場合は、復元操作で行ってください。サイズの異なるディスクへイメージを復元すると、パーティションサイズは変更せず、残りのスペースは未割り当て領域となります。

その他

Q 1 :　Acronis ワンクリック プロテクションの保存先にCD/DVDが選択できません。

A 1 :　Acronis ワンクリック プロテクションで任意に保存先を設定できますが、CD/DVDは選択できない仕様になっております。
Acronis ワンクリック プロテクションの保存先の優先度については、ユーザーズガイド「4-1 Acronis ワンクリック プロテクション」をご参考ください。

Q 2 :　ショートカット キー（アクセス キー）が使用できません。

A 2 :　ひらがななどの日本語にショートカット キーが割り当てられていたり、同じ文字に対して二重に割り当てられているキーがあるため､ショートカット キーが使用できないものがあります。
その場合はマウスを使用して操作してください。

Q 3 :　ディスプレイの解像度を変更すると、Acronis True Image Homeの画面右上の閉じるボタンなどが使用できません。

A 3 :　Acronis True Image Homeを起動中にディスプレイの解像度を変更しますと、画面右上の閉じるボタンが使用できなくなります。その場合はAcronis True Image Homeを再起動してください。

Q 4 :　システム クリーンアップ実行中に残りの時間が表示されません。

A 4 :　システム クリーンアップ実行中に表示される処理の進行状況画面の残りの時間は表示されない仕様となっています。

Q 5 :　Acronis True Image の動作中にリード（セクタ）エラーが発生します。

A 5 :　次の何れかに該当する場合に、リード（セクタ）エラーが発生する場合があります。次の原因をお確かめください。

※詳細は、弊社ウェブページで公開しています FAQ をご参照ください。

- ディスクにエラーがある
- セキュリティ系ソフトウェアがインストールされている
- パーティション/ディスク管理ソフトウェアがインストールされている
- 他社のバックアップ ソフトウェアがインストールされている（Windows 標準の機能は除く）
- 転送速度が低速なハードウェアを使用している

Q 6 :　電子メール通知が失敗します。

A 6 :　電子メール通知機能で、テスト メッセージを送信しようとしても「テスト用の電子メールを送信できません。」とエラーメッセージが表示される場合は、ファイアウォールやアンチ ウィルスなどのソフトウェアの影響が考えられます。

回避方法：

- ファイアウォールやアンチウィルス、またその他のセキュリティ ソフトウェアがインストールされている場合はセキュリティ ソフトウェアが信頼できるプログラムとして次の項目を追加してください。

C:¥Program Files¥Common Files¥Acronis¥TrueImageHome¥TrueImageHomeService.exe
C:¥Program Files¥Common Files¥Acronis¥TrueImageHome¥TrueImageHomeNotify.exe

Q 7 :　ログに「･･･のようなスクリプトはありません。」とエラーが表示されます。

A 7 :　別のユーザーがAcronis True Imageのタスクを作成して実行しようとしていたり、タスクのスクリプト ファイルが削除され

た可能性などが考えられます。なお、タスクのスクリプト ファイルはデフォルトでは、次のフォルダに保存されます。
Windows XP：
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Acronis¥TrueImageHome¥Scripts
Windows Vista：
C:¥Program Data¥Acronis¥TrueImageHome¥Scripts

Q８：　［保護状態］の画面で、バックアップ アーカイブの数を確認できる画面が表示されません。

A８：　バックアップ アーカイブの数やスケジュールされたタスクの数などを確認するには、Acronis True Imageの［保護状態］画面の［Acronis システム情報］で行えます。［Acronis システム情報］は折りたたまれた状態で表示されますので、項目名をクリックして内容を展開してください。

最新の情報など上記以外にも**ホームページにて FAQ**（http://www.runexy.co.jp/support/faq/faq_acronis_consumer/）を掲載しておりますので、ご参照いただくことをお勧めいたします

ユーザーズガイド 正誤表

http://www.runexy.co.jp/support/

最新の情報はパーソナルサポートセンターにて掲載しております。

ユーザーズガイド 正誤表

※ 【注】は注意事項、【削除】は削除項目となります。

ページ	行	区分	内容
P11	1行目	【誤】	セットアップ ファイル
		【正】	設定ファイル
P11	15行目	【誤】	ネットワーク上のドライブ
		【正】	ネットワーク共有
P13	8行目	【削除】	ファイル システム
P14	14行目	【誤】	自動統合は CD または DVD に保存されたアーカイブを除くすべてのアーカイブに利用できます。
		【正】	自動統合は CD または DVD に保存されたアーカイブを除くすべてのアーカイブに利用できます（環境によっては、自動統合が正しく動作されないことがあります）。
P14	22行目	【誤】	アーカイブの保存場所が USB メモリドライブである場合、デバイス接続時に自動的にバックアップが開始されますが、それはスケジュールされたバックアップが実行されなかった場合に限られます。
		【正】	アーカイブの保存場所が USB メモリドライブであり、スケジュールされたバックアップが実行されなかった場合は、デバイス接続時に自動的にバックアップが開始されます。
P15	14行目	【誤】	SystemFDISKbeforeRepartitioning
		【正】	SystemDISKbeforeRepartitioning
P15	25行目	【誤】	128 MB RAM
		【正】	256 MB RAM
P16	3行目	【誤】	マウスまたはその他のポインティング デバイス(推奨)
		【正】	マウスまたはその他のポインティング デバイス
P17	9行目	【削除】	(イメージをマウントして、そのイメージからファイルを復元することはできます)
P17	18行目	【誤】	DVD-RAM***、BD-R、BD-RE***
		【正】	DVD-RAM、BD-R、BD-RE***

P21	4 行目	【誤】	Acronis TrueImage Backup Archive Explorer
		【正】	Acronis True Image Backup Archive Explorer
P21	14 行目	【誤】	ウンロード
		【正】	ダウンロード
P22	22 行目	【誤】	msiexec /i path_to_msi_file ＼ msi_file_name.msi REINSTALL=ALL REINSTALLMODE=vomus
		【正】	msiexec /i path_to_msi_file¥msi_file_name.msi REINSTALL=ALL REINSTALLMODE=vomus
P24	4 行目	【誤】	元のバージョン
		【正】	以前のバージョン
P24	8 行目	【誤】	元のバージョン
		【正】	以前のバージョン
P24	9 行目	【誤】	元のバージョン
		【正】	以前のバージョン
P25	221 行目	【誤】	swap ファイル
		【正】	スワップ ファイル
P26	18 行目	【誤】	「第 12 章 アーカイブの参照とイメージのマウントを
		【正】	「第 12 章 アーカイブの参照とイメージのマウント」を
P30	13 行目	【誤】	システム状態
		【正】	システムの状態
P31	17 行目	【誤】	Acronis リムーバブル メディア
		【正】	Acronis ブータブル メディア
P38	5 行目	【注】	1）の平均圧縮率や必要サイズはあくまでも目安となっておりますので、実際の操作とは異なる可能性があります。
P40	24 行目	【誤】	Acronis リカバリ マネージャが有効化されていないければ
		【正】	Acronis リカバリ マネージャが有効化されていない場合は
P41	2 行目	【誤】	システムのボリューム バックアップを更新する間隔
		【正】	システム ボリュームをバックアップする更新間隔
P46	7 行目	【誤】	試用モードの結果
		【正】	試用モードの状態
P50	12 行目	【誤】	有効化キー
		【正】	アクティベーション キー
P54	23 行目	【誤】	システム状態のバックアップ
		【正】	システムの状態のバックアップ
P55	5 行目	【誤】	システム状態を選択した場合、
		【正】	システムの状態を選択した場合、

P57	23 行目	【誤】	アップデートは、新しいプログラム ビルドまたはインターネットを通じて提供されます。
		【正】	アップデートは、インターネットを通じてダウンロードできる新しいプログラム ビルドによって提供されます。
P58	6 行目	【誤】	アップデートは、新しいプログラム ビルドまたはインターネットを通じて提供されます。
		【正】	アップデートは、インターネットを通じてダウンロードできる新しいプログラム ビルドによって提供されます。
P60	9 行目	【誤】	追加を行った後のバックアップファイルの場所を変更する場合は、［参照］ボタンをクリックし、新しいバックアップ先を選択します。変更しない場合は、既存アーカイブのある場所のままにします。
		【正】	追加するバックアップファイルの保存先を変更する場合は、［参照］ボタンをクリックし、新しいバックアップ先を選択します。変更しない場合は、既存アーカイブがある場所に保存されます。
P63	15 行目	【誤】	条件には一般的な Windows のワイルドカードを使用して、1 行に複数の条件をセミコロンで区切って入力することができます。
		【正】	条件には一般的な Windows のワイルドカードを使用したり、セミコロンで区切って 1 行に複数の条件を入力することができます。
P64	8 行目	【誤】	C:\Program Files\Common Files\
		【正】	C:¥Program Files¥Common Files¥
P64	10 行目	【誤】	「\」の記号
		【正】	「¥」の記号
P70	2 行目	【誤】	デフォルトで、.bak、.~、.tmp、および.tib の拡張子
		【正】	デフォルトで、.~、.tmp、および.tib の拡張子
P72	5 行目	【誤】	たとえば、.jpg、.pdf、mp3 など
		【正】	たとえば、.jpg、.pdf、.mp3 など
P72	26 行目	【誤】	デフォルトの設定は［低］です。
		【正】	デフォルトの設定は［通常］です。
P75	3 行目	【誤】	たとえば、コンピュータの増分バックアップが
		【正】	たとえば、コンピュータの完全バックアップが
P75	15 行目	【誤】	後でそのアーカイブを DVD±R ディスクに
		【正】	後でそのアーカイブを DVD ディスクに
P75	21 行目	【誤】	［自動］を選択し、DVD-R ディスクに
		【正】	［自動］を選択し、DVD ディスクに

ページ	行		内容
P76	17 行目	【誤】	(下記の「6.4.4 ファイルレベルのセキュリティ設定」をご参照ください)
		【正】	(後述の「6.4.4 ファイルレベルのセキュリティ設定」をご参照ください)
P78	6 行目	【誤】	Acronis DISK Director Suite
		【正】	Acronis Disk Director Suite
P79	15 行目	【誤】	［タスクとログ］ □ ［ログ］
		【正】	［タスクとログ］ → ［ログ］
P82	1 行目	【誤】	backupfilename_reserved_copy_mm-dd-yyyy hh-mm-ss AM.tib、または、 backupfilename_reserved_copy_mm-dd-yyyy hh-mm-ss PM.tib
		【正】	backupfilename 予約したコピー yyyy-mm-dd H-mm-ss ※ 上記日付と時刻の表記は、［地域オプション］が「日本語」のデフォルトの状態となります。 ※ 日付と時刻の表記は、コンピュータの［地域と言語のオプション］の設定に依存します。
P82	5 行目	【誤】	mm-dd-yyyy hh-mm-ss は、予備コピー作成の日時で、月(1 桁または 2 桁)、日(1 桁または 2 桁)、年(4 桁)、時間(1 桁または 2 桁)、分(2 桁)、秒(2 桁)の形式になっています。 AM または PM は、午前または午後の 12 時間です。
		【正】	yyyy-mm-dd H-mm-ss は、予備コピー作成の日時で、年(4 桁)、月(2 桁)、日(2 桁) 、時間(1 桁または 2 桁)、分(2 桁)、秒(2 桁)の形式になっています。なお、こちらの表記は、日付と時刻の表記は、コンピュータの［地域と言語のオプション］の設定に依存します。
P82	9 行目	【誤】	例： MyBackup_reserved_copy_8-15-2008 9-37-42 PM.zip 予備コピーをフラットファイル形式で作成することを選択 した場合、ファイルは、自動的に作成されて backupfilename_reserved_copy_mm-dd-yyyy hh-mm-ss AM(または PM)のように名づけられたフォルダに入れられます。
		【正】	例:MyBackup 予約したコピー2008-08-15 9-37-42.zip 予備コピーをフラットファイル形式で作成することを選択 した場合、ファイルは、自動的に作成されて backupfilename 予約したコピー yyyy-mm-dd

			H-mm-ss のように名づけられたフォルダに入れられます。
P84	2 行目	【誤】	「my」で始まる
		【正】	「My」で始まる
P84	16 行目	【削除】	ファイル システム
P90	25 行目	【誤】	警告メッセージ
		【正】	情報メッセージ
P91	2 行目	【誤】	バックアップを完了するには、ディスクの領域を空けて［再試行］をクリックするか、あるいは別のストレージデバイスを選択することができます。後者のオプションを選択するには、警告画面で［参照］をクリックします。［場所の参照］ウィンドウが開きます。
		【正】	バックアップを完了するには、ディスクの領域を空けて［再試行］をクリックするか、あるいは別のストレージデバイスを選択します。後者のオプションを選択するには、情報画面で［参照］をクリックします。［場所の参照］ウィンドウが開きます。
P95	3 行目	【誤】	前途のとおり（「2.3 Acronis True Image Home」をご参照ください）
		【正】	前途のとおり（「2.3 Acronis True Image Home の実行」をご参照ください）
P96	18 行目	【誤】	これを行うは、
		【正】	これを行うには、
P101	9 行目	【誤】	このウィンドウで指定する条件に一致するファイル
		【正】	このウィンドウで指定した条件に一致するファイル
P103	6 行目	【誤】	終了します。
		【正】	終了してください。
P103	14 行目	【誤】	必要なバックアップが見つからない場合(たとえば、バックアップがかなり前に以前のバージョンの Acronis True Image Home で作成された場合)は、［参照］をクリックし、次にディレクトリツリーにあるバックアップロケーションを選択して、右ペインでバックアップを選ぶことにより、手動でバックアップを管理することができます。
		【正】	必要なバックアップが見つからない場合(たとえば、バックアップが**古い**バージョンの Acronis True Image Home で作成された場合)は、［参照］をクリックし、次にディレクトリツリーから**バックアップの保存先**を選択して、右ペインでバックアップを選ぶことにより、手動でバックアップを管理することができます。

P106 2 行目	【誤】	復元の対象として
	【正】	復元の種類として
P106 5 行目	【誤】	［セクタ単位］
	【正】	セクタ単位
P106 7 行目	【誤】	セクタ単位の復元を選択した場合のみ
	【正】	セクタ単位のバックアップを復元しようとした場合のみ
P112 1 行目	【誤】	6.3.7 復元するパーティションのサイズと場所の変更
	【正】	6.3.7 復元するパーティションのサイズと位置の変更
P112 2 行目	【誤】	パーティションのサイズと場所の変更は、
	【正】	パーティションのサイズと位置の変更は、
P114 24 行目	【誤】	「my」で始まる
	【正】	「My」で始まる
P116 20 行目	【誤】	アーカイブの整合性をベリファイすることができます。
	【正】	アーカイブの整合性をチェックすることができます。
P117 1 行目	【誤】	アーカイブ データの整合性をベリファイするには、
	【正】	アーカイブ データの整合性をチェックするには
P118 24 行目	【誤】	電子メールの設定を変更します。
	【正】	電子メールの設定を変更してください。
P123 1 行目	【誤】	仮想的な変更の保存場所として選択されたディスクが
	【正】	Acronis セキュア ゾーンが
P128 12 行目	【誤】	空白のディスク
	【正】	ブランク ディスク
P134 1 行目	【誤】	タスクを 1 日に数回繰り返すときは、[午前 0 時まで次の間隔でタスクを実行する]ボックスを選択し、間隔を時間で指定します。
	【正】	タスクを 1 日に数回繰り返すときは、［次の間隔でタスクを実行する x 時間（午前 0 時まで）]ボックスを選択し、間隔を時間で指定します。
P134 6 行目	【誤】	タスクの実行間隔を［タスクの実行間隔］ボックスに指定し
	【正】	タスクの実行間隔を［次の間隔でタスクを実行する×週間に 1 回、次の曜日］ボックスに指定し
P137 20 行目	【誤】	スケジュールされていないのタスク
	【正】	スケジュールされていないタスク
P137 21 行目	【誤】	スケジュールされていないのタスク
	【正】	スケジュールされていないタスク
P158 7 行目	【誤】	（メッセージにすべての処理ログを追加するには、［処

		理が正常に完了したら通知を送信する］チェックボックスをオンにします)
	【正】	（メッセージにすべての処理ログを追加するには、［すべてのログを通知する］チェックボックスをオンにします)
P158 10 行目	【誤】	(メッセージにすべての処理ログを追加するには、［処理が正常に完了したら通知を送信する］チェックボックスをオンにします)
	【正】	(メッセージにすべての処理ログを追加するには、［すべてのログを通知する］チェックボックスをオンにします)
P167 6 行目	【誤】	ツールバーで［バックアップの一覧に移動］をクリックします。
	【正】	そのバックアップの上で右クリックし、メニューから［バックアップの一覧に移動］をクリックします。
P167 11 行目	【誤】	［すべてのバックアップタブに移動されます。
	【正】	［すべてのバックアップ］タブに移動されます。
P172 6 行目	【誤】	2008 年 9 月 8 日 13 時 35 分 05 秒の時点の
	【正】	2009 年 1 月 20 日 16 時 05 分 03 秒の時点の ※ P173 の画面ショットの「MyBackup」一覧の上のバックアップとなります。
P172 7 行目	【誤】	2008 年 9 月 8 日 13 時 39 分 59 秒の時点の
	【正】	2009 年 1 月 20 日 16 時 08 分 17 秒の時点の ※ P173 の画面ショットの「MyBackup」一覧の下のバックアップとなります。
P213 5 行目	【誤】	警告のウィンドウが表示されます
	【正】	確認のウィンドウが表示されます。
P257 1 行目	【誤】	B.3 SATA ハードディスク ドライブのインストール
	【正】	B.3 SATA ハードディスク ドライブの設置
P258 1 行目	【誤】	B.3.1 新しい内部 SATA ドライブをインストールするためのステップ
	【正】	B.3.1 新しい内蔵 SATA ドライブを設置するためのステップ

エンドユーザーライセンス契約(EULA)

ダウンロードされたソフトウェア製品、またはこれらのディスクに含まれるソフトウェア製品（以下「本ソフトウェア」といいます）をインストールして使用する前に、本ソフトウェアに適用される以下のライセンス契約（以下「本契約」といいます）を注意深くお読み下さい。本契約のすべての条項を受諾し同意する場合には「同意する」をクリックして下さい。それ以外の場合は「同意しない」をクリックして下さい。「同意する」をクリックすることにより、または本ソフトウェアをダウンロード、インストールおよび／または使用することにより、使用者（以下「ライセンシー」といいます）は、本ソフトウェアのライセンスを受けたものとして ACRONIS INTERNATIONAL GMBH（所在地：ACRONIS INTERNATIONAL GMBH、VERWALTUNG EURO HAUS RHEINWEG 5 SCHAFFHAUSEN, SWITZERLAND 8200）（以下「ライセンサー」といいます）との間に拘束力のある契約が成立します。本契約のすべての条項を受諾しない場合には、本ソフトウェアのダウンロード、インストールおよび／または使用の権利はなく、直ちに本ソフトウェアおよび関連ファイルを削除しなければなりません。

本契約は、ソフトウェアライセンスと評価ライセンス（以下に定義）のいずれに基づいてライセンスされるかにかかわらず、本ソフトウェアに適用されます。

<u>購入した本ソフトウェアのライセンス</u>　本ソフトウェアのライセンスの購入により、ライセンサーは、本契約の規定に従いライセンシーに対して本ソフトウェアを使用する非排他的、移転不能、かつ譲渡不能のライセンスを、購入したライセンス数のコンピューターにおいて、ライセンシーの内部的目的のためにのみ使用することを許諾し、ライセンシーはこれを受諾します。ライセンシーはその責任においてインストールを行います。本項に定めるライセンスは「本ソフトウェアライセンス」といいます。

<u>本ソフトウェアの評価ライセンス：</u>　ライセンシーは、ライセンサーが延長しない限り、30 日を超えない期間（以下「評価期間」）について本ソフトウェアを評価する権利を有します。評価ライセンスに基づきライセンスされた本ソフトウェアを正規の環境で使用することはできません。評価ライセンスに基づく本ソフトウェアの評価について、ライセンシーは課金されません。評価期間の終了をもって、ライセンシーは（本ソフトウェアについて本ソフトウェアライセンスを購入しない限り）本ソフトウェアをシステムから削除するものとし、本契約で規定する権利および責任を除き本ソフトウェアに対するライセンスその他の権利を有しないものとします。**ライセンサーは、契約上、過失責任、厳格責任その他のいかなる法的根拠に基づくものであるかにかかわらず、評価ライセンスに基づく本ソフトウェアの使用から生じるいかなる特別損害、直接損害、間接損害、懲罰的損害賠償、または結果的損害についても一切責任を負いません。この制限は、限定的な救済がその本質的目的を達成できない場合であっても適用されます。**本契約中の<u>**権利制限、守秘義務、保証の免除、ライセンシーによる補償、準拠法、輸出制限、および一般条項**</u>の規定は、本ソフトウェアの評価ライセンスについても適用されます。本項に規定するライセンスを「評価ライセンス」といいます。

使用権：
<u>ライセンスの割当て：</u>　ライセンシーは、本ソフトウェアを本ソフトウェアライセンスに基づき作動させる前に、ライセンスを 1 台のコンピューターに割り当てなければならず、当該コンピューターは、当該本ソフトウェアの「ライセンスを受けたコンピューター」となります。他のソフトウェアライセンスを当該コンピューターに割り当てることができますが、本契約に定める場合を除き、同一の本ソフトウェアライセンスを他のコンピューターに割り当てることはできません。

恒久的不具合により「ライセンスを受けたコンピューター」を撤去する場合には、本ソフトウェアライセンスを再割り当てすることができます。本ソフトウェアライセンスを再割り当てする場合には、ライセンスを割り当てられたコンピューターが当該本ソフトウェアライセンスについて新たに「ライセンスを受けたコンピューター」となります。

<u>**本ソフトウェアの作動：**</u>　ライセンシーは、本ソフトウェアを 1 台のコンピューター（物理的または仮想的）で作動させる権利を有します。バックアップを作成するもとのコンピューター、またはバックアップされたイメージを復元または展開する先のコンピューターは、いずれも有効なライセンスを有していなければなりません。

<u>**サポート：**</u>　サポートはライセンサー又はライセンサーの委託先から行います。本ソフトウェアライセンスのライセンスを受け、ライセンサー又は委託先に本ソフトウェアライセンスを登録することにより、ライセンシーは以下のサポートを受けることができます。ただし、いずれもライセンサーの独自の裁量により提供されます。（1）本ライセンスソフトウェアの「パッチ」または「ドットリリース」（11.01、11.02、11.03 等）の提供を受けること（ただし、本ソフトウェアライセンスの主要リリース(Version 12、Version 13 等）は本サポートには含まれず、アップグレード料金を支払う必要があります）、（2）ライセンサー又は委託先のウエブサイト上のサポートセクションにある現ライセンサーサポートポリシーまたはライセンシー、ライセンサー間の関連契約に基づくサポートを受けること、および（3）ライセンサー又は委託先が一般的に顧客に提供する電子的手段によるサービス（本ソフトウェアライセンスに関する一般的な質問に回答することを補助する電子的に利用可能な知識データベース（ノレッジ・ベース）等）を利用すること。ただし、ライセンシーが本ソフトウェア製品に許可なく改変を加えた場合には、サポートサービスは無効となります。

サポートポリシーは変更されることがありますが、一般的にソフトウェア購入後 30 日間の基本サポートが含まれます。　サポートを受ける為には、正当な所有者であることの証明または、ユーザー登録が必要です。

権利制限：　「購入」という表現にかかわらず、本ソフトウェアは本契約に基づきライセンスされますが、販売されるものではありません。本契約は、本ソフトウェアの限定されたライセンスを付与しますが、本ソフトウェアの全部または一部について権原を移転しまたは譲渡するものではなく、また、ライセンサーは、コピーを含む本ソフトウェアのすべてについて所有権を保持します。ライセンシーは、本ソフトウェアがライセンサーおよびライセンサーに対する供給者またはライセンス供与者の営業秘密（個々のプログラムにおける内部設計および構造並びに関連するインターフェース情報を含みますがこれらに限りません）を含んでいることを認めるものとします。したがって、本契約において明示的に定める場合を除き、ライセンシーはいかなる権利も有しておらず、かつとりわけ以下を行わないことに同意するものとします。

(1) ライセンスの権利を他の人または団体に移転し、譲渡し若しくはサブライセンスし、または本ソフトウェアを指定されたＰＣ以外の機器において使用すること、かつライセンシーはいかなる移転、譲渡、サブライセンス、または使用の試みも無効であることを認めるものとします。
(2) 本ソフトウェアについてエラーの是正、その他改変を加え若しくは適合化を行うこと、本ソフトウェアの派生的創作を作成すること、または第三者がこれらの行為をなすことを許可すること。
(3) リバースエンジニアリング、逆コンパイル、復号化、逆アセンブル、その他本ソフトウェアを人間が読める形式にすること、ただし本制限にかかわらず、適用される法令により明示的に許される範囲を除きます。
(4) 役務提供、タイムシェアその他の形態の如何にかかわらず、ライセンシーから明示的に書面により許可を受けた場合を除き本ソフトウェアを第三者に対しサービスを提供する目的で使用し、または使用を許可すること。
(5) ライセンサーの事前の書面による同意なく、第三者に対し本ソフトウェアに含まれる営業秘密を形式の如何を問わず開示し、提供しまたは使用に供すること。

守秘義務：　本ソフトウェアは、ライセンサーの営業秘密であり、ライセンサーの財産です。ライセンシーは、少なくとも自己の類似する財産的情報について払う注意と同程度の注意（ただし合理的な程度の注意を下回らないものとします）をもって本ソフトウェアの秘密を保持し、本ソフトウェアの開示を防止するものとします。ライセンシーは、本ソフトウェアの全部または一部を、何人に対してもいかなる目的でも開示しないものとします。ライセンシーは、手段の如何を問わず、本ソフトウェアを逆コンパイル、逆アセンブル若しくはリバースエンジニアリングし、または本ソフトウェアのソースコード、基礎となる考案､アルゴリズム､ファイルフォーマット、プログラミング若しくは相互運用性インターフェース、その他本ソフトウェアが含み、またはこれを使用して生成するファイルを再構築しまたは発見することを試みないものとし、また第三者がこのような行為をなすことを許可しないものとします。本項に基づく義務は、本契約の終了後も存続します。

保証の免除：　本ソフトウェアは「現況有姿」で提供され、ライセンサーは本ソフトウェアについて明示または黙示のいかなる製品保証（商品性、権原、第三者の権利の不侵害、特定の目的についての適合性についてのあらゆる黙示的製品保証を含みます）も行いません。上記の制限を損なうことなく、ライセンサーは本ソフトウェアに含まれる機能がライセンシーの選択する組合せにおいて作動すること、およびソフトウェアが支障なく、またはエラーなく作動すること、および／またはソフトウェアの瑕疵が修補されることを保証しません。本ソフトウェアの結果および作動に関するすべてのリスクはライセンシーが負うものとします。また、ライセンサーは本ソフトウェアまたは関連文書の使用、または使用の結果に関し、その正確性、信頼性、現行性その他についていかなる保証または表明もしません。ライセンサーによる一切の口頭または文書による情報または助言は保証を意味せず、また、本保証の範囲を拡大するものではありません。

責任の制限：　ライセンサーは、契約上、過失責任、厳格責任その他のいかなる法的根拠に基づくものであるかにかかわらず、本ソフトウェアの使用から生じるいかなる特別損害、間接損害、懲罰的損害賠償、または結果的損害についても一切責任を負いません。ライセンサーの損害に対する累積的責任の総額は、契約、製品保証、不法行為、過失責任、厳格責任、補償その他のいかなる理由による訴訟であるかにかかわらず、いかなる場合にもライセンシーが本契約に基づきライセンスを受けた本ソフトウェアについて支払ったライセンス料の額を超えないものとします。この制限は、限定的な救済がその本質的目的を達成できない場合であっても法令の許す範囲で適用されます。

ライセンシーによる補償：　ライセンシーは、ライセンシーによる本ソフトウェアの使用の直接的または間接的な結果として第三者がライセンサーに対し行う請求から生ずるすべての費用（弁護士費用を含む）についてライセンサーを免責とし弁護するものとし、一切の費用を負担させないことに同意するものとします。

解除:　本契約は以下の場合に料金の減額なしに解除することができます。⑴ライセンシーは理由の如何を問わず 30 日前の通知によって、⑵ライセンサーはライセンシーの債務不履行の場合において、他の救済に加え、催告の後 10 日内にこれを是正できなかったとき、⑶一方当事者は、相手方当事者が通常の事業を停止し、支払不能となり、または破産、支払不能その他の手続の対象となった場合において。理由の如何を問わず本契約が解除された場合には、ライセンシーは直ちに本ソフトウェアおよびすべてのコピーをライセンサーに返却し、かつハードウェアからすべての本ソフトウェアおよびすべてのコピーを削除するものとします。

準拠法：　本契約は、米国の実体法（ただし抵触法規定を除きます）に準拠します。国際物品売買契約に関する国連条約の適用は受けないものとします。本契約に基づく訴訟は､専ら米国の裁判所にて行われるものとします。ライセンサーに対する本契約に基づく訴訟は、請求原因が発生してから１年以内に提起されなければなりません。

エンドユーザーが合衆国政府である場合：　本規定は直接または間接に合衆国政府によりまたは合衆国政府のために取得されたすべての本ソフトウェアについて適用されます。本ソフトウェアは商品であり、公開された市場において市場価格によりライセンスされるものであり、本ソフトウェアはすべて民間費用により開発され、合衆国政府の資金を使用していません。本ソフトウェアが国防総省に提供される場合には、合衆国政府は、本契約に従い公衆に通常付与されるライセンスの権利のみを取得します。本ソフトウェアが国防総省以外の合衆国政府機関に提供される場合には、合衆国政府は限定されたライセンスのみを取得します。合衆国政府による使用、複製、および開示はFAR. 52.227-19「商用コンピューター・ソフトウェアについての制限された権利」条項の(c)に定める制限の対象となります。

輸出制限：　ライセンシーは、適用のある輸出法令（合衆国商務省の法令を含みますがこれに限りません）に従って行う場合を除き、本ソフトウェアまたはその直接的な産出物を、合衆国またはライセンサーにより最初に出荷された仕向国から移動させ若しくは輸出しないものとし、かついかなる地域からも再輸出しないものとします

一般条項：　本契約は、本契約の対象事項に関し当事者の合意のすべてを定めるものであり、口頭か書面かを問わず従前の合意（ライセンシーにより提出された注文書を含みます）に優越するものとします。本契約上の権利の行使の遅延または不行使は、権利の放棄となりません。すべての通知は書面をもって、手渡しにより受け渡され（受領をもって到達とします）、または書留または配達証明付き郵便で送付される（投函の後３日目に到達とします）ものとします。ライセンサーあての通知は、上記の住所あてに送付しなければなりません。いずれかの条項が無効とされた場合にも、その他の条項の効力は存続します。ライセンシーは、本契約またはこれに基づく権利または義務の全部または一部を第三者に対し譲渡し、担保を設定し、その他移転することができないものとします。段落の見出しは便宜のためのものであり、解釈に影響を及ぼさないものとします。債権を回収するため、または本ソフトウェアの不法な使用、開示または頒布その他本契約の違反に対する権利保護または防御のために法的措置が必要である場合には、ライセンサーは、全ての費用および出費（合理的な弁護士費用を含むがこれに限定されないものとします）を回収することができるものとします。

本契約に関して不明な点がございましたらアクロニス・ジャパン（sales_jp@acronis.com）までご連絡ください。